≪基調講演概要≫

【第１部：基調講演①】

「未来プロジェクト構想～伝えたいこと」

講師：中村　英夫　　東京都市大学名誉総長

（一社）日本プロジェクト産業協議会副会長

○インフラが未整備なため困っている地域がたくさんある。例えば新幹線だと、東の方はほぼ全ての県に新幹線が通っている。ところが首都圏、大阪圏を除いて今新幹線が通ってないところは四国の４県、山陰の２県、東九州の２県である。

○フランスにはミヨーという大変大きく素晴らしい高架橋ができている。これは、新しい方式でしており、これらを紹介して、みなさんが豊予海峡ルートや東九州新幹線を考えていく上での一つのヒントにしていただきたい

○長いトンネルを自動車が走れるのかと言うが、これからは電気自動車が走るようになり、自動運転で走るようになると思う。だから長いトンネルでも自動車が走ることは可能である。

○インフラ事業というと、全て国・自治体のお金ということが頭にずっとあるが、これからはそういうことは出来ない。この豊予海峡プロジェクトもそうであり、全て国のお金でするなんてことはとても困難である。

○ＰＦＩを利用すべき。そして、一番安い補助金で出来るといった企業にさせるといった、補助金入札制度を利用すべきである。ヨーロッパあたりでは、盛んにあるが、こういったことを導入する余地もある。

○新幹線が出来る駅や終点の駅は、たちまちみんながよく知る駅となり、交流人口も増える。その効果は大変大きいと言える

○鉄道会社だけに開業する事業費を負担させるのであれば鉄道会社はしません。国や自治体が後押しできる制度的なことを全体的としてやっていかなければならない

○我々のしているプロジェクトで、瀬戸内海を観光地としてもっと活用していこうとし動いている。そうして周ってきた船が例えば大分空港について、大分空港から飛行機に乗ってマレーシアに帰るという Fly＆Cruise ということもありえる。

○橋は出来ているので、新幹線を走らせて四国に入らせる。ただ、四国に入ったら単線で十分であり、四国の鉄道は、大都市間をつなぐのは一時間に一本くらいで十分。いつの間にか新幹線は複線でなければいけないという思い込みになっている。

○単線の高速鉄道は、世界的に需要はものすごく大きい。複線の東海道や山陽新幹線が必要な場所は、日本とアメリカとヨーロッパの一部しかない。単線のものをしっかりと技術開発をして、海外へ輸出していき、建設費の節減をはかるといったことを考えることが必要。